

# 令和6年度 上町中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪府教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

## 1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

## 2-1 「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

## 2-2 「大阪市版チャレンジテストplus」の調査の目的

- (1) 生徒及び保護者が、学習理解度及び学習状況等を知り、目標をもって主体的に学習に取り組めるようにする。
- (2) 学校が生徒一人ひとりの学力を的確に把握し、学習指導の改善及び進路指導に活用する。
- (3) 学びの連続性を確立する観点から、客観的・経年的なデータを把握、分析し、効果的な指導方法や課題を「見える化」し、その改善に役立てる。

## 3 「大阪市英語力調査（GTEC）」の調査の目的

- (1) グローバル社会において活躍し貢献できる人材の育成をめざし、生徒の英語力の充実・向上を図るため、本市教育振興基本計画に基づき、生徒に求められる英語力や学習の習熟過程等を把握・検証する。
- (2) 生徒が自らの英語力を的確に把握するとともに、生徒の英語力の実態を分析することにより、各学校における学習指導の充実や改善、工夫に役立てる。

## 4 「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の調査の目的

- (1) 子供の体力・運動能力等の状況に鑑み、国が全国的な子供の体力・運動能力の状況を把握・分析することにより、子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、各国公立学校が全国的な状況との関係において自らの子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子供の体力・運動能力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各国公立学校が各児童生徒の体力・運動能力や運動習慣、生活習慣、食習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

# 令和6年度 上町中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

## 1 全国学力・学習状況調査

学年		生徒数 (人)	平均正答率(%)		平均無解答率(%)	
実施月日			国語	数学	国語	数学
3 年	学校	115	57	52	2.6	7.7
	大阪市	—	56	51	4.1	12.5
4月18日	全国	—	58.1	52.5	3.9	11.3

## 2 中学生チャレンジテスト

学年		生徒数 (人)	平均点(点)					平均無解答率(%)				
実施月日			国語	社会※	数学	理科※	英語	国語	社会※	数学	理科※	英語
3 年	学校	110	69.6	51.5	52.3	57.0	56.7	3.0	3.7	12.6	2.2	4.2
	大阪市	—	65.4	50.2	48.8	52.1	54.0	4.9	4.7	14.3	4.1	6.5
9月3日	大阪府	—	65.2	50.4	49.1	52.3	53.6	5.3	5.0	14.8	4.4	6.9
2 年	学校	106	71.5	53.4	56.4	59.3	54.9	7.3	3.8	8.1	4.0	7.8
	大阪市	—	66.1	49.9	51.4	49.5	54.6	8.4	4.6	8.2	6.1	7.0
1月9日	大阪府	—	65.5	49.5	50.7	47.2	54.0	9.3	5.2	9.5	7.4	7.9
1 年	学校	90	63.6	61.2	58.6	62.3	64.5	9.0	5.5	5.7	3.0	8.4
	大阪市	—	59.0	53.7	50.5	55.6	62.1	8.3	5.5	7.4	3.8	4.9
1月9日	大阪府	—	58.5	—	49.8	—	61.5	9.4	—	8.8	—	5.8

※ 1年生の社会・理科については、「大阪市版チャレンジテストplus」として実施

※ 1年生の理科は化学的領域を選択

※ 2年生の社会はA問題を選択 2年生の理科はB問題を選択

※ 3年生の理科はC問題を選択

## 3 大阪市英語力調査 (GTEC)

学年		生徒数 (人)	読むこと 【リーディング】	聞くこと 【リスニング】	書くこと 【ライティング】	話すこと 【スピーキング】
実施月日			(スコア)	(スコア)	(スコア)	(スコア)
3 年	学校	109	112.8	123.1	166.5	113.9
10月15日	大阪市	—	105.7	104.6	149.6	102.1

## 4 全国体力・運動能力、運動習慣等調査

学年	生徒数 (人)	握力	上体 起こし	長座 体前屈	反復 横とび	20m シャトル ラン	持久走 男子1500m 女子1000m	50m走	立ち 幅とび	ハンドボール 投げ	体力 合計点
	105	(kg)	(数)	(cm)	(点)	(回)	(秒)	(秒)	(cm)	(m)	(点)
2 年 男 子	学校	29.50	30.56	52.35	59.52	83.22		7.93	196.50	19.47	47.22
	大阪市	28.38	26.42	42.74	51.50	79.76		8.08	196.64	19.84	41.10
	全 国	28.95	25.94	44.47	51.51	78.98		7.99	197.18	20.57	41.86
2 年 女 子	学校	26.57	26.09	45.07	51.64	57.74		8.73	177.70	14.27	54.19
	大阪市	22.99	22.21	45.64	45.86	52.98		9.01	167.01	12.04	47.51
	全 国	23.18	21.56	46.47	45.65	50.67		8.96	166.32	12.40	47.37

令和6年度 上町中学校のあゆみ  
—結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

【成果と課題】

○全国学力・学習状況調査結果

＜国語＞

平均正答率は全国と比較して－1.1であり、大阪市と比較すると＋1である。平均無回答率は全国と比較して－1.3であり、大阪市と比較すると－1.5である。

「話すこと・聞くこと」の領域において平均正答率は全国と比較して－1.1であり、大阪市と比較すると＋2.5である。

「書くこと」の領域において平均正答率は全国と比較して＋3.8であり、大阪市と比較すると＋6.9である。

「読むこと」の領域において平均正答率は全国と比較して－4.2であり、大阪市と比較すると－2.5である。

課題としては「読むこと」の領域の正答率で全国平均・大阪市平均ともに大きく下回っていることである。「書くこと」の領域で平均正答率が上回っているにもかかわらず、国語の全体で全国の平均正答率を下回ってしまった。普段の生活の中で、文字に親しむことが必要である。

＜数学＞

平均正答率は全国と比較して－0.5であり、大阪市と比較すると＋1である。平均無回答率は全国と比較して－3.6であり、大阪市と比較すると－4.8である。

「数と式」の領域において平均正答率は全国と比較して－3.4であり、大阪市と比較すると－1.9である。

「図形」の領域において平均正答率は全国と比較して＋2であり、大阪市と比較すると＋3.4である。

「関数」の領域において平均正答率は全国と比較して－2.4であり、大阪市と比較すると＋0.2である。

「データの活用」の領域において平均正答率は全国と比較して＋1.2であり、大阪市と比較すると＋3.9である。

課題としては「数と式」の領域の正答率で全国平均・大阪市平均ともに大きく下回っていることである。「図形」と「データの活用」の領域で平均正答率が上回っているにもかかわらず、数学の全体で全国の平均正答率を下回ってしまった。計算問題の演習と定着が必要である。

【今後に向けて】

＜国語＞

授業規律を確保しつつ、生徒の基礎学力向上と定着に向けて、読書の時間の確保や新聞を読むことなど、文字に親しむことができるように家庭学習を習慣づけられるように指導する必要がある。

＜数学＞

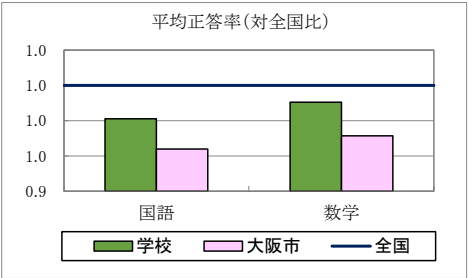
授業規律を確保しつつ、生徒の基礎学力向上と定着に向けて、計算問題の演習量と時間の確保が必要である。家庭学習を習慣づけられるように指導する必要がある。

令和6年度 上町中学校のあゆみ  
 ―結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について―

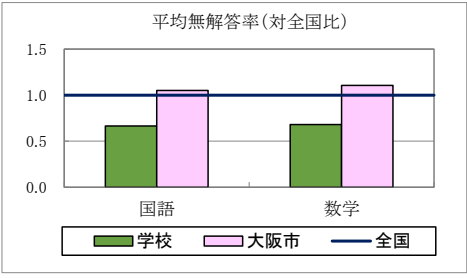
全国学力・学習状況調査 教科に関する調査より

【 全 体 】

	平均正答率(%)	
	国語	数学
学校	57	52
大阪市	56	51
全国	58.1	52.5

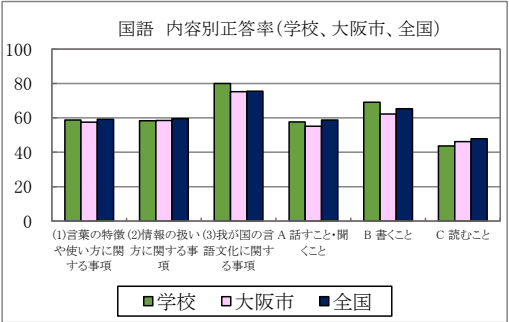


	平均無解答率(%)	
	国語	数学
学校	2.6	7.7
大阪市	4.1	12.5
全国	3.9	11.3



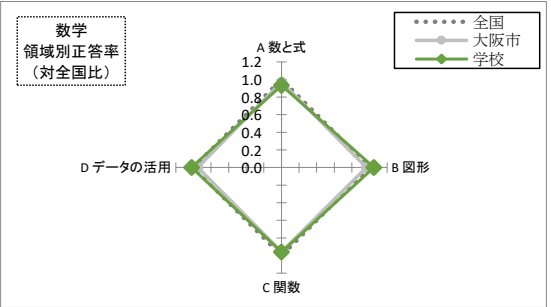
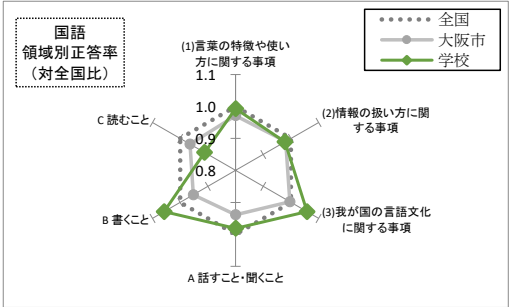
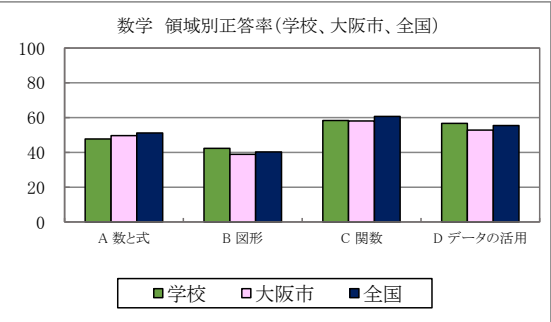
【 国 語 】

学習指導要領の内容	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い 方に関する事項	3	58.8	57.5	59.2
(2)情報の扱い方に 関する事項	2	58.3	58.5	59.6
(3)我が国の言語文化 に関する事項	1	80.0	75.3	75.6
A 話すこと・聞くこと	3	57.7	55.2	58.8
B 書くこと	2	69.1	62.2	65.3
C 読むこと	4	43.7	46.2	47.9



【 数 学 】

学習指導要領の 領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と式	5	47.7	49.6	51.1
B 図形	3	42.3	38.9	40.3
C 関数	4	58.3	58.1	60.7
D データの活用	4	56.7	52.8	55.5



# 令和6年度 上町中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

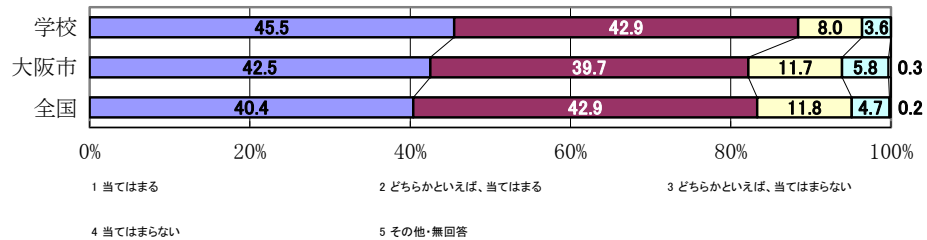
## 生徒質問より

1 2 3 4 5 6 7 8

質問番号  
質問事項

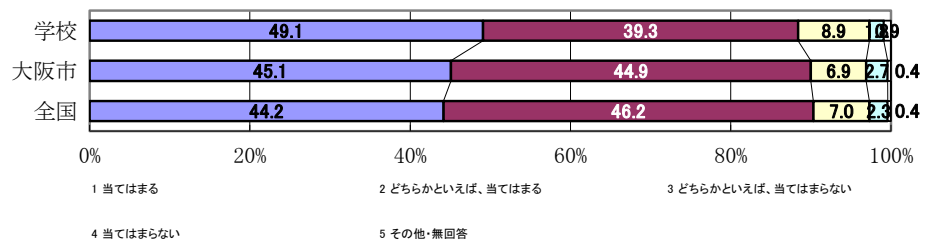
9

自分には、よいところがあると思いますか



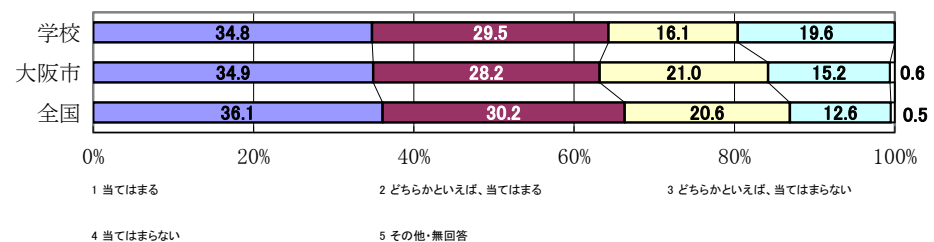
10

先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか



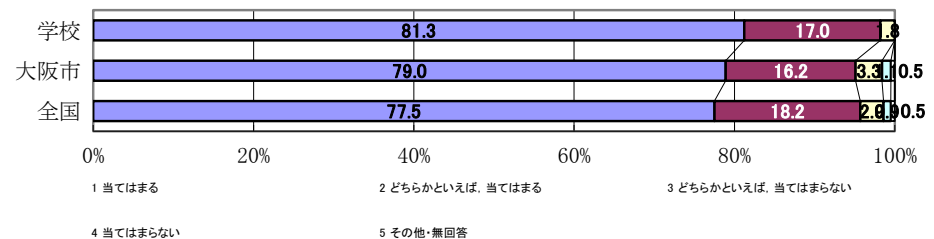
11

将来の夢や目標を持っていますか



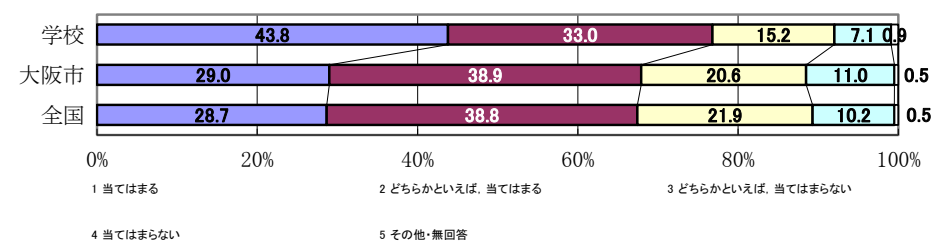
13

いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか



14

困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか



令和6年度 上町中学校のあゆみ  
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

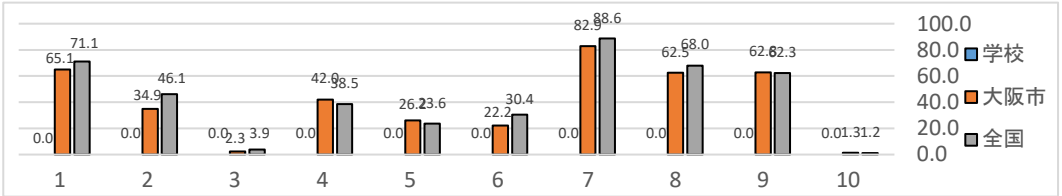
生徒質問より（26）

質問番号

質問事項

26

放課後や週末に何を  
して過ごすことが多  
いですか(複数選択)



1 学校の部活動に参加している

2 家で勉強や読書をしている

地域の活動に参加している(地域学  
校協働本部や地域住民などによる  
学習・体験プログラムを含む)

4 学習塾など学校や家以外の場所で  
勉強している

5 習い事(スポーツに関する習い事を  
除く)をしている

6 スポーツ(スポーツに関する習い事  
を含む)をしている

7 家でテレビや動画を見たり、ゲーム  
をしたり、SNSを利用したりしている

8 家族と過ごしている

9 友達と遊んでいる

10 1～9に当てはまるものがない

# 令和6年度 上町中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

## 学校質問より

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

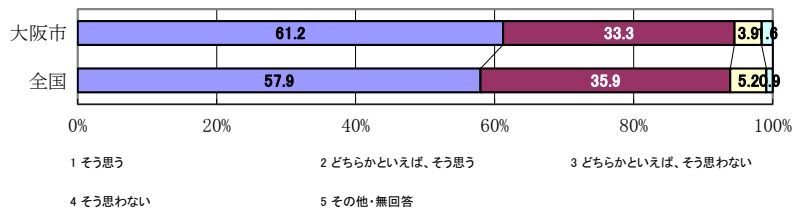
質問番号

質問事項

7

調査対象学年の生徒は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか

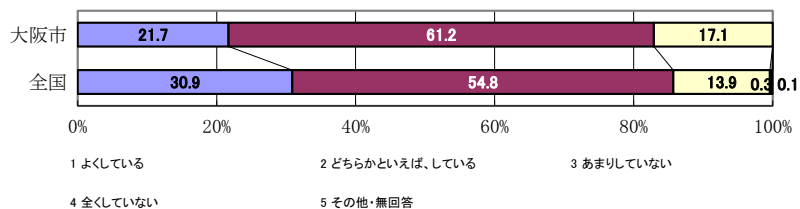
学校 「そう思う」を選択



17

生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修を行っていますか

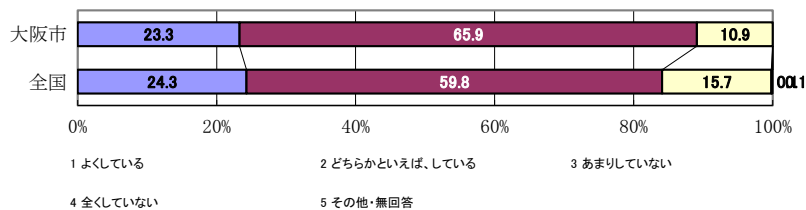
学校 「どちらかといえば、している」を選択



18

個々の教員が自らの専門性を高めるため、校外の各教科等の教育に関する研究会等に定期的・継続的に参加していますか(オンラインでの参加を含む)

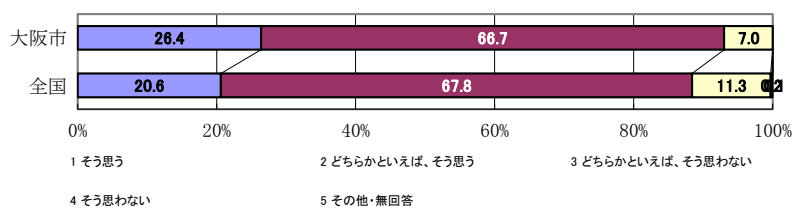
学校 「どちらかといえば、している」を選択



25

調査対象学年の生徒は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか

学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



27

調査対象学年の生徒は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができていると思いますか

学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択

